

札幌市の子どもの学力の現状と今後の取組について

平成25年10月 9日 札幌市教育委員会

■札幌市が目指す学力…「学ぶ力」

○札幌市の教育においては、自ら学ぼうとする「**学ぶ意欲**」や、思考力・判断力・表現力等の「**活かす力**」、基礎的・基本的な知識や技能などの「**学んだ力**」の3つの要素で構成される「**学ぶ力**」をバランスよくはぐくむことを目指して教育活動等の充実に努めてきております。

■札幌市の成果と課題

○教育委員会では、子どもの現状を把握し、教育活動等の改善を図るため、このたび、平成25年度全国学力・学習状況調査（平成25年4月実施）における札幌市の調査結果を分析し、課題や改善の方向性を明らかにするとともに、国際的な調査や札幌市が独自に行ってきた学力調査などの結果も踏まえて、「学ぶ力」の札幌市の現状を分析し、「**札幌の成果と課題**」としてまとめました。（本資料P1）

■札幌市の今後の取組

○また、「札幌の成果と課題」を踏まえ、今後、教育委員会として推進する取組を「**さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン**」にとりまとめました。（本資料P2）

< 本資料の概要 >

P1

子どもの学力の現状と札幌の成果と課題

日本全体の状況

■国際比較による日本の子どもの学力■

- ◆習熟度の高い児童生徒の割合は増加したが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低い。
- ◆学習意欲等に肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加したが、国際平均よりも低い。
- ◆必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手。

札幌市全体の状況

■札幌の子どもの学力■

- ◆知識・技能の定着⇒小学校国語の（漢字を書くことなど）、算数（小数の計算など）に継続的な課題。
- ◆活用⇒中学校の教科領域等で全国平均正答率と比べて「上回る」「ほぼ同程度だが上回る」傾向。一方、「事実を基にして自分の考えをもつこと」などが小・中ともに課題。

■札幌の子どもの学習習慣と学習意欲■

- ◆家庭での学習習慣や、学習意欲に課題。

札幌の成果と課題

- 読書への意欲向上に成果。一方、学習習慣の確立や、自ら学ぼうとする学習意欲の向上に課題。
- 思考力・判断力・表現力等に、問題解決的な学習等の成果も見られるが、知識・技能ほど十分に身に付いているとは言えない。
- 知識・技能は、概ね身に付いているが、小学校の教科領域の一部に継続的な課題も見られる。

P2

「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」

- ◆分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実
- ◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進
- ◆子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善

■国際比較による日本の子どもの学力■

TIMSS
国際数学・理科
教育動向調査

2011年調査 小4、中2が対象
算数・数学、理科の
知識・技能の習得状況
小学校・算5位、理4位(50か国中)
中学校・数5位、理4位(42か国中)

「習熟度の高い児童生徒の割合は、前回調査に比べ増加しているが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低くなっている。」

「学習に対する意欲等について、前回調査に比べ肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加。国際平均よりも低い。」
(文部科学省資料より抜粋)

PISA
OECD生徒の
学習到達度調査

15歳が対象。義務教育
修了段階で身に付けた知識
や技能を実生活の様々な課
題にどの程度活用できるか。

- 数学的リテラシー
数学的根拠に基づいた判断・能力
- 科学的リテラシー
科学的知識を活用し、課題を明確
にして結論を導き出す能力
- 読解力
テキストを理解、利用し、考える力

・習熟度レベル1~4(低~高)で見ると、前回調査(2006年)と比べてレベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加。
・トップレベルの国々と比べると、成績下位層が多い。

数学的リテラシー
2006年10位(57か国・地域中) 2009年 9位(65か国・地域中)
科学的リテラシー
2006年 6位(57か国・地域中) 2009年 5位(65か国・地域中)
読解力
2006年15位(57か国・地域中) 2009年 8位(65か国・地域中)

「必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手。」
(文部科学省資料より抜粋)

■札幌の子どもの学力■

平成25年度全国学力・学習状況調査

小6、中3が対象(H25年4月実施)
国語、算数・数学の
「知識に関する問題(A問題)」
「活用に関する問題(B問題)」

札幌市学習実現状況調査

小5、中2が対象(H24年2月実施)
社会・理科・英語の知識・理解について「基礎に関する」と「応用に関する問題」

【小学校】 ⇒国語、算数の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」
【中学校】 ⇒国語、数学の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

⇒小中学校ともに、
期待される正答率(設定通過率)と同程度

- ◆ **知識・技能の定着**については、小学校国語(漢字を書くことなど)、算数(小数の計算など)に**継続的な課題**(一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況)
- ◆ **「活用」**に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る問題が見られている。一方、「**与えられた条件を基に筋道を立てて考え、記述すること**」や「**事実を基にして自分の考えをもつこと**」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、**小・中学校ともに課題**。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

■札幌の子どもの学習習慣と学習意欲■

平成25年度全国学力・学習状況調査

■ **読書が好き**な子どもの割合が小・中学校ともに増加し、**全国平均より高い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小72.0%(71.3%) 中66.5%(67.9%)
H25年度:小74.5%(72.1%) 中76.3%(70.1%)

■ **将来の夢や目標をもっている**子どもの割合が**増加しているが、全国平均より低い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小81.5%(83.7%) 中69.2%(70.7%)
H25年度:小85.7%(87.7%) 中71.5%(73.5%)

■ **難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している**子どもの割合が小・中学校ともに増加しているが、**全国平均より低い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小69.8%(72.3%) 中62.7%(62.0%)
H25年度:小71.2%(75.0%) 中65.7%(66.8%)

札幌市児童生徒の実態に関する基礎調査

■ H23年度の調査では、家庭での学習時間は、小・中学校ともに、「ほとんどしない」と回答した割合が過去調査(H20年度)に比べ減少しているが、「15分以内」「ほとんどしない」と回答している子どもの割合が小学生(小5)23.9%、中学生(中2)28.4%となっている。

◆ **家庭での学習習慣や、学習意欲についての課題が見られる。**

★札幌の成果と課題★

- 読書への意欲向上に成果。一方、学習習慣の確立や、自ら学ぼうとする学習意欲の向上に課題。
- 思考力・判断力・表現力等に、問題解決的な学習等の成果も見られるが、知識・技能ほど十分に身に付いているとは言えない。
- 知識・技能は、概ね身に付いているが、**小学校の教科領域の一部に継続的な課題も見られる。**



- ◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の三点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
 - 子どもが、**学ぶことの意義や楽しさ**を感じ取り、自ら学び続けようとする**意欲をもつこと**
 - 子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの**多様な学びを経験し、身に付けること**
 - 子どもが、学び続けるための**基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦**していけるようになること

- ◇学校での学びの質を高め、家庭とも一体となって「学ぶ力」をはぐくむことを目指して「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」を実施していく。

さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

H25年度試行、H26年度以降新たな「札幌市教育振興基本計画」へ位置付け

◆分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実

学ぶ意欲の向上

「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

- 体験的な活動**や**言語活動**、**問題解決的な学習活動**等を取り入れた授業の工夫改善を図る。

「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実

- 児童生徒の実態に応じて、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、**個に応じた指導の充実**を図る。
*「TTの有効活用」「定着を図る授業を位置付けた単元構成」「朝の時間を活用した学習活動」等

各学校が「学ぶ力」育成プログラムを作成し実行

- 各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の**課題を明確化し、改善に向けたプログラムの作成、実行**に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

教員の指導力向上に向けた施策

具体的な改善策について教育委員会が支援

札幌市教育センター研修事業

- 授業づくりに関する**研修の充実**
 - ・実効性の高い研修の充実
 - ・指導資料等の積極的な活用

札幌市教育研究推進事業

- 「分かる・できる・楽しい授業」に関する**研究の推進**
 - ・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進
 - ・研究・研修の成果の発信

教育課程研究協議会・説明会等

- 「分かる・できる・楽しい授業」の**在り方を協議**
 - ・事例の共有
 - ・研究開発事業の成果発信等

札幌市研究開発事業

- 指導方法等の**モデル事例開発**
 - ・研究推進校によるモデル事例の開発
 - ・モデル事例の共有と活用

◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

情報発信の充実

○家庭、地域への**情報発信**を充実

- ※家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進
- ・「**札幌市教育フォーラム**」の開催(H25.10.29)
- ・さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランリーフレット作成・配布
- ・札幌市PTA協議会との連携
- ・広報活動の充実・工夫

「学ぶ力育成プロジェクト会議」(案)の設置

○「学ぶ力」の育成に向けた**取組を検討**

- ※会議メンバー:保護者代表、大学教授、校長、教員等
- ・学校、家庭が一体となって、子どもへ働きかける
- ・**さっぽろっ子「学びの習慣10項目」(仮)**を検討し提案、家庭向け**「家庭学習のススメ」(仮)**の提案など
- ・家庭での読書習慣づくりの促進と朝読書の充実
- ・ICTの活用、学生ボランティアの活用などの環境整備

校長会との連携強化

○**双方向**による「学ぶ力」の育成

- ※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化
- ・「学ぶ力」の育成に向けた協議
- ・校長会への情報提供、啓発、助言
- ・さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランリーフレットの検討
- ・各学校の研修会等の充実

子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善

○教育施策や教育指導の改善に反映するため、**札幌市全体の共通指標を設定**し、子どもの学習状況等を把握するとともに、分析する。 ※各種調査結果+子どもの自己評価

(例) 「自分から進んで・・・」(学ぶ意欲)

・「学習したことを覚えている・・・」「学校の授業以外でも繰り返して学習している・・・」(基礎的・基本的な知識及び技能)

・「資料や学習したことを使って考える・・・」「いくつかの考えを比べてよりよいものを選ぶ・・・」「分かりやすく考え方を表す・・・」(思考力・判断力・表現力等)

検証改善サイクルの確立

評価

改善

検証改善